



神奈川県藤沢市

ふじさわの下水道



藤沢市下水道
マスコットキャラクター
「ふじまる」

藤沢市下水道部

目次

- 1 下水道について(入門編) 3
- 2 水の循環 8
- 3 下水道の役割 10
- 4 下水道の処理区域と施設 12
- 5 下水道の仕組み 14
- 6 下水道管について 16
- 7 浄化センター・ポンプ場について 20
- 8 下水道とお金のはなし 22
- 9 下水道の正しい使い方 24
- 10 下水道のPR活動 25
- 11 下水道のあゆみ 26

はじめに

藤沢市は、神奈川県の中央南部に位置し、南に相模湾を望む、気候温暖で自然豊かな住みやすいまちです。

市内には江の島をはじめとする観光地や、藤沢駅・辻堂駅周辺などの商業地が栄えるとともに、JR東海道本線、小田急江ノ島線、江ノ島電鉄、湘南モノレール、相鉄いずみ野線、横浜市営地下鉄が乗り入れ、交通の便にも恵まれています。

このように、住環境、観光、産業、文化など、様々な顔を持つバランスのとれた都市として発展を続け、2021年1月時点では、人口が43万人を超えています。

本市の下水道事業は、これらの地域特性を考慮しながら、市民の生活環境の改善と浸水に対する安全性の向上を図るため、積極的に事業を進めてきました。

その結果、令和元年度末時点では、下水道処理人口普及率が95.8%となり、全国平均の79.7%を大きく上回っています。

今後は、快適な生活環境と安全で安心な暮らしを継続していけるよう、老朽化対策や地震対策などに取り組んでいきます。

本冊子をご覧くださいいただくことにより、生活に密着した下水道と藤沢市の下水道事業について、理解を深めていただければ幸いです。



1 下水道について(入門編)

みなさんは下水道のことをどれくらい知っていますか？下水道は生活に深く関係しているものですが、自立たないところがあるので、わからないことも多いのではないのでしょうか。

ここでは、藤沢市の下水道マスコットキャラクター「ふじまる」と下水道について学んでみましょう。

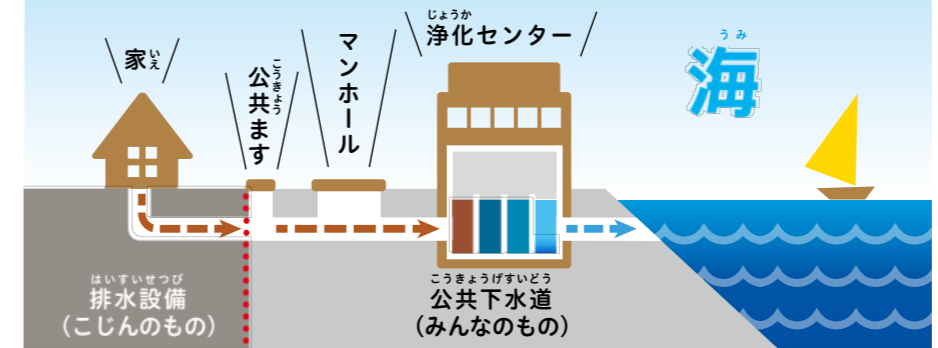
Q

近所でマンホールをよく見かけるけど、何のためにあるの？中はどうなっているの？

A

マンホールは下水道を点検したり、掃除したりするための入口なんだ。その中には下水道が通っていて、みんなの家のトイレやキッチンから流した水や雨水などが流れているよ。

「ふじまる」



家の中の下水道は「排水設備」、公共ますから先のみんなで使う下水道は「公共下水道」と言うんだ。

下水道の役割は、大きく分けて4つ。

- トイレやキッチンで使った水を流して清潔で快適な暮らしを守ること
- 雨水を流して浸水対策を行うこと
- 汚れた水を浄化センターできれいにして水環境を守ること
- 資源やエネルギーを有効利用すること だよ。

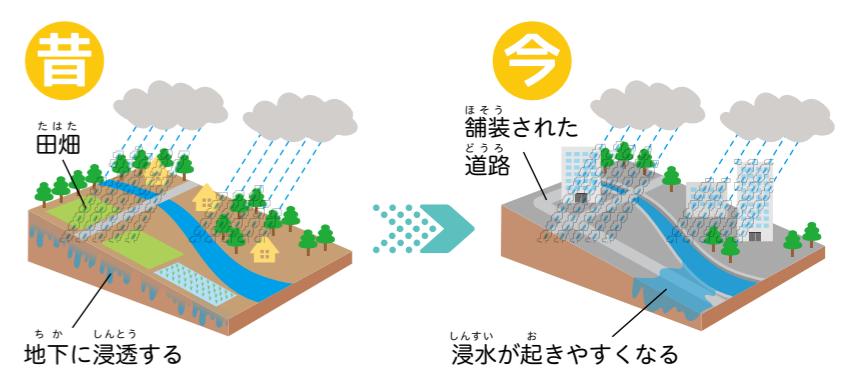
浸水対策

有効利用

清潔で快適な暮らし

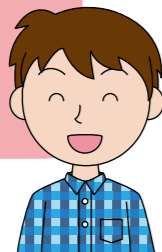
水環境を守る

今は昔と比べてアスファルトなどにおおわれた土地が多くなっていて、雨が地面にしみこみにくくなっているし、大雨も多くなっているから、下水道は浸水対策としても大事なものだ。



Q

下水道はいつから使われているの？



A

下水道の始まりはなんと紀元前 5000 年ごろ。日本で近代的な下水道が作られたのは 1880 年代からで、藤沢では 1951 年から下水道の本格的な整備が始まったんだ。



世界	日本	藤沢市
紀元前 5000 年頃 メソポタミア文明が栄えた都市(ウル、バビロンなど)に下水道が作られる	古墳時代 屋根からの雨水を受ける溝が作られる	下水道は昔から、高いところから低いところに動力を使わずに水を流す「自然流下」というしくみを基本にしています。
1350 年頃 ヨーロッパでペストが流行し、多くの死者が出る	奈良時代(710 年頃) 平城京(奈良時代の日本の首都)に下水きよ(排水溝)が作られる	
1370 年 フランスのパリに下水道が作られる	1583 年 大阪に太閤下水が作られる	雨水を流すためのもので、汚水を処理するものではありませんでした。
1848 年 イギリスのロンドンでコレラが流行し、多くの死者が出るドイツのハンブルクに下水道が作られる	1648 年 街に下水道が張りめぐらされ、たくさんの堀を通じて川に下水を流す	
1858 年 アメリカのシカゴに下水道が作られる	1877 年～ 1879 年 日本でコレラが流行し、多くの死者が出る	旧下水道法は、汚水・雨水を排除して土地の清潔を保つことを目的としていました。
1863 年 イギリスのロンドンに下水道が作られる	1884 年 神田(東京)に近代下水道が作られる	
1914 年 イギリスに現在と同じ処理方法を用いた下水処理場が作られる	1900 年 旧下水道法が制定される	1951 年 雨水対策を主とした下水道事業に着手
現行下水道法により、合流式下水道を前提とした都市内の浸水防除、環境整備が進められました。1970 年には川や海の水質保全が目的に加えられました。	1950 年代～70 年代 日本の産業が盛になるとともに、公害が起こり各地の川や海が汚れていく	1958 年 藤沢市下水道条例を制定
	1958 年 現行下水道法が制定される	1964 年 南部下水処理場の運転を開始(現 辻堂浄化センター)
	1964 年 東京オリンピック開催(江の島がヨット競技会場に)	1964 年 南部下水処理場の運転を開始(現 辻堂浄化センター)
	1967 年 公害対策基本法が制定される	1967 年 公害対策基本法が制定される
	1970 年 水質汚濁防止法が制定される	1970 年 水質汚濁防止法が制定される
		1985 年 東部下水処理場の運転を開始(現 大清水浄化センター)

クイズ 1

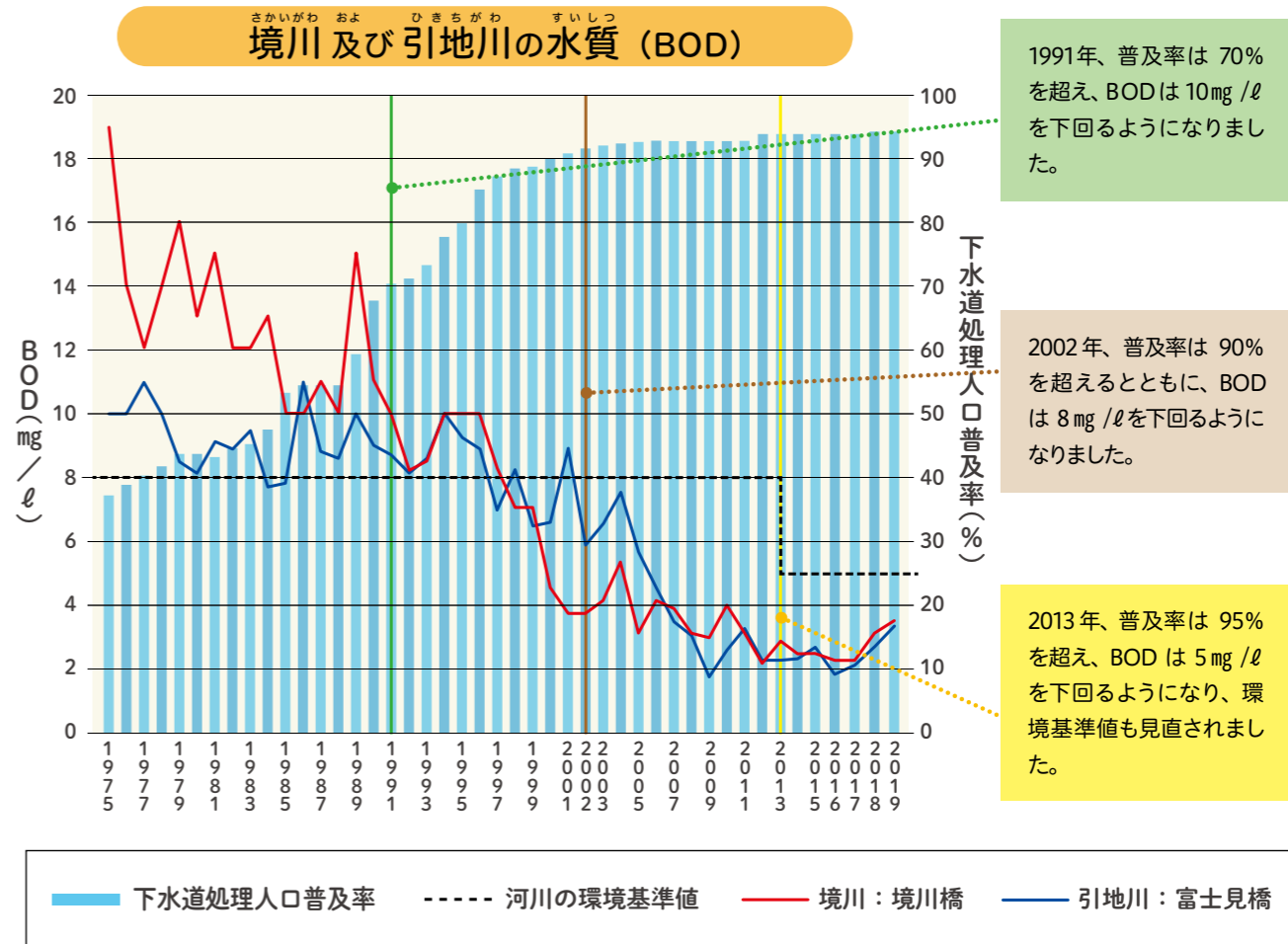
1951 年から始まった藤沢の下水道整備。2020 年時点で人口に対する普及率はどれくらいでしょうか？

- 1. 約 56%
- 2. 約 76%
- 3. 約 96%

答えは 6 ページ

下水道整備による川や海の水質改善

下水道の重要な役割の一つは、家庭や工場などから排出される汚水を処理してきれいな水にし、川や海に放流し、水質改善や豊かな水環境の保全をすることです。藤沢市では 1951 年に下水道事業に着手し、普及の拡大を進めた結果、川や海の水質は大きく改善してきました。



※下水道処理人口普及率……下水道利用人口を総人口で割り、どれくらい下水道が普及しているかを表しています。

BOD とは？

BOD (Biochemical Oxygen Demand) とは、生物化学的酸素要求量といって、水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のことです。河川の有機物による水質汚濁を測る代表的な指標です。単位は、mg / l で表し、数値が大きくなればなるほど、水質が汚濁していることを意味します。



1970 年頃 洗剤で泡立っている境川



現在の境川

Q

下水道の仕組みは
全国どこでも
同じなの？



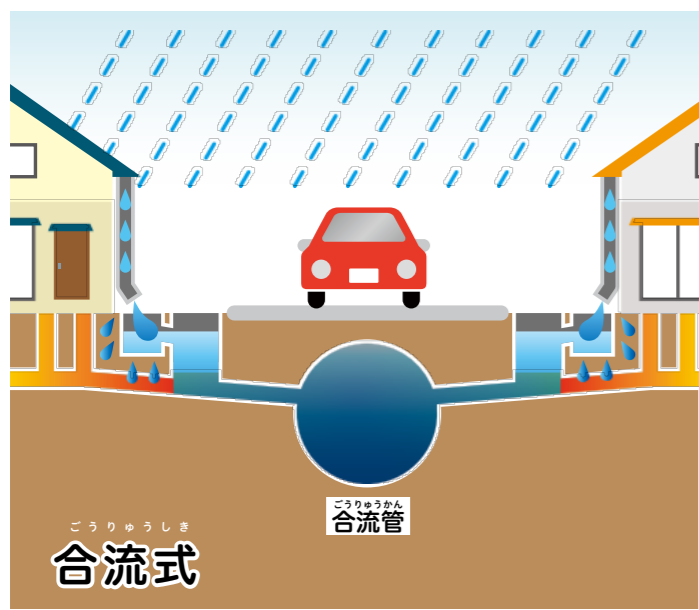
A

地形や整備時期などによって違っているよ。
藤沢市には下水をきれいにする浄化センターが2つ。
下水を流す方式も、
汚水と雨水を同じ下水道管に流す合流式と
汚水と雨水を別々の下水道管に流す分流式の
両方があるんだ。



下水を流す方式 合流式と分流式の違い

下水を流す方式には、汚水と雨水を一緒に流す合流式と、汚水と雨水を別々に流す分流式があります。



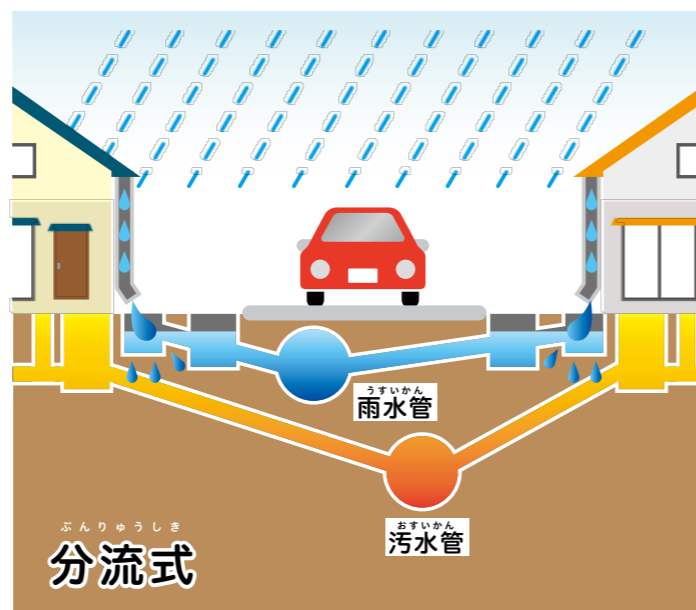
汚水と雨水を同一の下水道管で流します。

よいところ

分流式と比べて下水道管整備が効率よく進みます。

わるいところ

雨天時に汚水混じりの雨水が一部、川や海に排出される問題があります。



汚水と雨水を別々の下水道管で流します。

よいところ

汚水は浄化センターで処理されるため、川や海に汚水が排出されません。

わるいところ

汚水と雨水の2種類の下水道管を整備するため、時間と費用がかかります。

クイズ
2

浄化センターを自ら管理している市町村は
神奈川県内33市町村のうちいくつでしょうか？

1. 5市町村 2. 15市町村 3. 33市町村

答えは7ページ

(クイズ1の答え) 3. 約96%。全国平均の約80%に比べるとだいぶ進んでいるね。

下水道管をつくる工事



クイズ
3

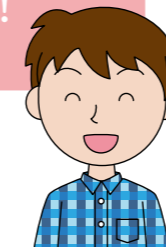
藤沢市の下水道の維持管理にはおよそどれくらいのお金
1年間にかけていたでしょうか？(令和元年度決算)

1. 約1億円 2. 約11億円 3. 約111億円

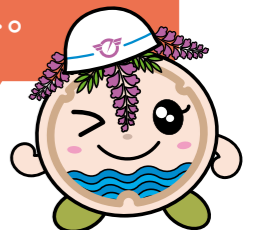
答えはページの下にあるよ

(クイズ2の答え) 2. 15市町村。ほかの市町は神奈川県が管理している浄化センターに下水を流しているよ。

下水道は
大事に使わないと
いけないね！



そうだね。環境保全・防災のために
重要な役割を担っているから、みんなが
気を付けて使うことが大切だよ。
下水道が傷んでしまうから油を流したり、
ごみを捨てたりしてはいけないよ。



(クイズ3の答え) 3. 約111億円。

維持管理のほかに、下水道を建設する費用が約21億円、
建設の時に借りたお金と利子の返済に約55億円かかっているよ。

次のページから、もう少し詳しく見ていこう！

2 水の循環

水は自然の仕組みによって、絶えず循環しています。太陽のエネルギーにより川や海などから大気中に蒸発して雲を作り、雨や雪となって地表に降り注ぎ、再び川や海へと戻る循環を繰り返しています。私たちは、この大きな循環の中で水を生活に利用し排出しています。

下水道は、私たちが汚した生活排水などの水をきれいにして、川や海へ戻すという水循環の中で重要な役割を担っています。



3 下水道の役割

下水道の役割は大きく分けて、水環境を保全すること、生活環境を改善すること、浸水を防ぐこと、資源を有効利用することの4つです。

生活環境の改善

下水道は家庭や工場からの排水を速やかに排除し、汚水による生活環境の悪化を改善します。下水道の整備によりトイレの水洗化が進み、悪臭や害虫の発生を防止し、清潔で快適な生活環境を確保します。



浸水を防ぐ

下水道は地表に降った雨水を川や海へ流し、低地部の住居への浸水被害を防いでいます。このためには併せて川も改修する必要があります。

また、近年、宅地化が進み地面への浸透域が減ってしまい、雨水の流出量が増加しています。更に、気候変動により突発的な都市型集中豪雨が頻繁に発生していることなどから、なるべく雨水を地下浸透させたり、貯めたりすることによって川への雨水流出量を抑えることも重要です。



水環境の保全

家庭や工場から排出される汚水をそのまま川や海へ排出すると、水質の汚濁が進みます。下水道は汚水を浄化し、きれいにして川や海へ戻すことで、水環境の保全に大きな役割を果たしています。

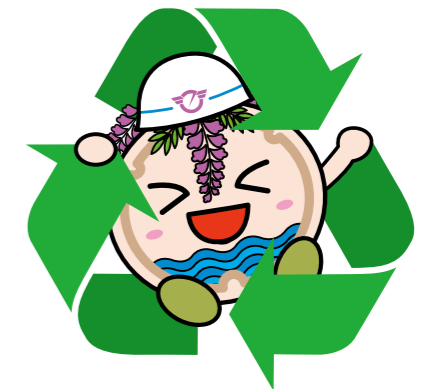


資源の有効利用

下水道には利用できる資源やエネルギーがあります。浄化センターで処理した水を再利用したり、汚水を浄化する際に発生する汚泥を資源として活用したり、資源循環型社会を実現するための重要な役割を担っています。



最終沈殿池からの処理水を砂ろ過機に通し、その水を浄化センター内の機器の洗浄などに使用します。水も大切な資源なので再利用しています。



4 下水道の処理区域と施設

藤沢市の下水処理は、南北に細長く、北部の台地から南部の海岸へ続く地形を活かし、3つの処理区に分けた処理形態としています。

下水道管

道路の下に網の目状に埋設され、汚水を浄化センターへ、雨水を川などへ流す施設です。



マンホール

下水道管の点検・清掃などの管理のために、人が入るための施設です。道路上には蓋しか見えませんが、この下にはマンホールとさらに下水道管が埋設されています。藤沢市のマンホールの蓋は、汚水は市の木である「黒松」、雨水は市の花である「藤」をデザインしています。



貯留管

元々ある下水道管の能力を補うもので、下水を一時的に貯める施設です。浸水被害軽減と、合流式下水道の雨水吐口から一定以上の雨の時に流れる未処理水を減らす役割を担っています。



ポンプ場

ポンプ場には汚水ポンプ場と雨水ポンプ場があり、汚水ポンプ場は下水道管を通り低い土地に集められた汚水を、ポンプでくみ上げて、浄化センターへ送る施設です。雨水ポンプ場は大雨時に雨水を、機械的に揚水して川へ排水する施設です。



辻堂浄化センター

1964年に運転を開始し、南部処理区の汚水を浄化し、相模湾へ放流しています。また、辻堂・大清水の両浄化センターの処理過程で発生する汚泥の焼却処理も行っています。



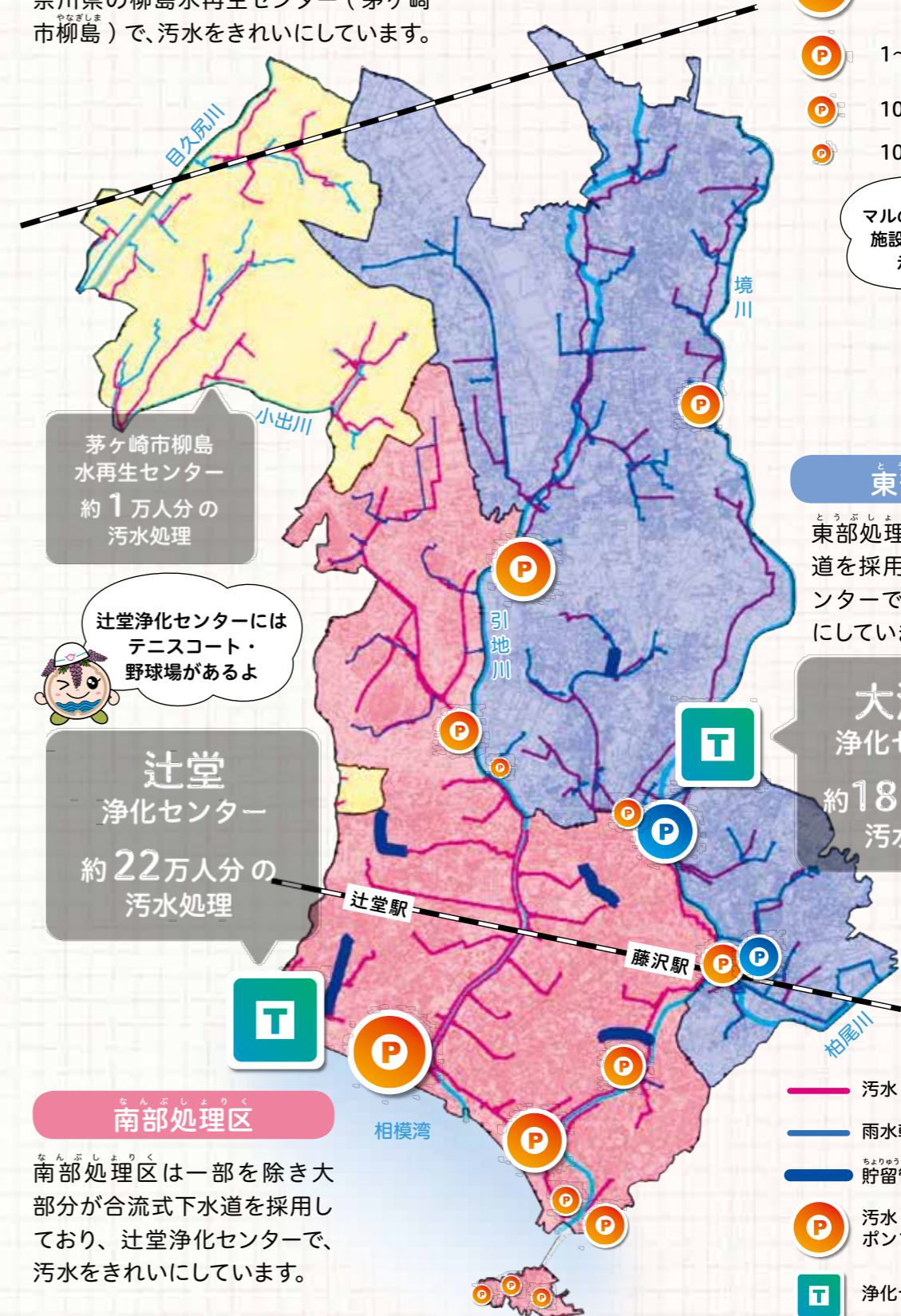
大清水浄化センター

1985年に運転を開始し、東部処理区の汚水を浄化し、境川へ放流しています。



相模川流域処理区

相模川流域処理区は分流式を採用し神奈川県柳島水再生センター（茅ヶ崎市柳島）で、汚水をきれいにしています。



- P** 10万人以上の水をくみ上げています。
- P** 5～10万人分
- P** 1～5万人分
- P** 1000人～1万人分
- P** 1000人以下

マルの大きさは施設の規模を示すよ

東部処理区

東部処理区は分流式下水道を採用し大清水浄化センターで、汚水をきれいにしています。

大清水浄化センター
約18万人分の汚水処理

辻堂浄化センター
約22万人分の汚水処理

茅ヶ崎市柳島水再生センター
約1万人分の汚水処理

辻堂浄化センターにはテニスコート・野球場があるよ

- 汚水・合流幹線
- 雨水幹線
- 貯留管
- 汚水ポンプ場
- 雨水ポンプ場
- 浄化センター

5 下水道の仕組み

水洗トイレ、家庭のキッチン、洗濯などの生活排水や工場排水などの汚れた水を、「汚水」とよび、「雨水」と併せて「下水」とよびます。「下水」は道路の下に埋まっている下水道管へ流れます。「汚水」は下水道管（污水管・合流管）を流れ、浄化センターへ運ばれて汚れを取り除かれた後、きれいな水となって川や海へ流されます。「雨水」は川や海へ直接流しています。

なお、下水道には合流式と分流式の2つの処理方式があります。

合流式下水道

家庭や工場などの汚水を雨水と同じ管（合流管）に集めて流し、汚水は浄化センターへ運び、雨水は川や海に流します。

分流式下水道

汚水と雨水を別々の管で流す方式。汚水は污水管で浄化センターへ運び、雨水は雨水管で川や海へ流します。

沈砂池

汚水中の砂や大きなゴミなどを沈殿除去します。



濃縮槽

最初沈殿池と最終沈殿池からの固形物と汚泥を集めて濃縮し、汚泥の体積を減らします。



脱水機

濃縮した汚泥に薬品を加えて、水を絞ります。汚泥の体積はさらに減ります。



脱水ケーキ

焼却炉

脱水した汚泥を焼却して、無害化・減量化を行い、有効利用しやすい形に変えます。

場外搬出

焼却してできた汚泥の灰を、有効利用するため、トラックで場外へ搬出します。

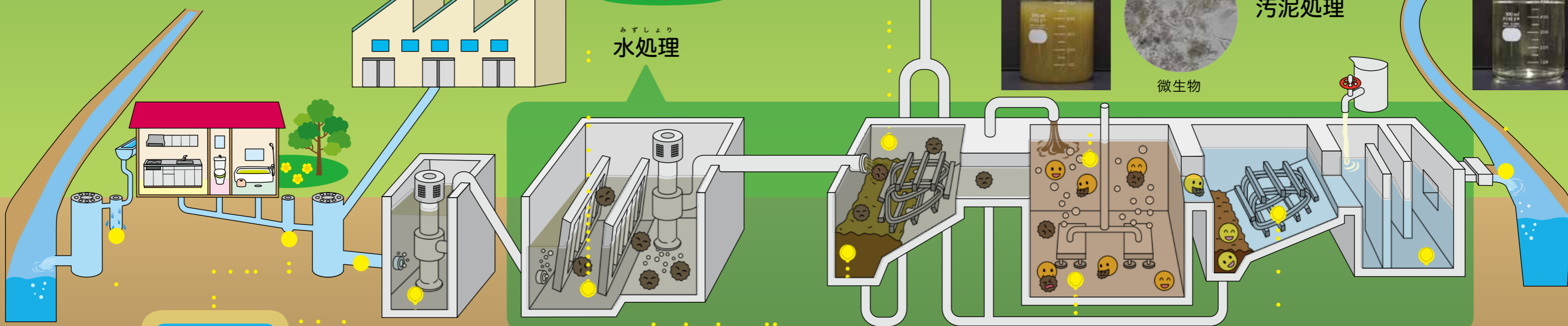


焼却灰

水処理

汚泥処理

微生物



雨水ます

雨どいなどから集めた雨水を雨水管へ取り込むための入口となる小さなますです。

汚水ます

家庭などから汚水を污水管へ取り込むための入口となる小さなますです。通常、宅地内に設置します。

污水管

家庭や工場から集めた汚水を浄化センターへ運びます。

ポンプ場

下水道は勾配をつけて埋められており、下水が自然に流れる仕組みとなっていますが、次第に深くなっていくので、ポンプで浅いところへくみ上げ、ふたたび汚水を自然に流します。

最初沈殿池

汚水をゆっくりと流し、固形物を沈殿させ、上澄水は反応タンクへ、沈殿した固形物は濃縮槽へ送ります。



反応タンク

汚水と活性汚泥を、空気を吹き込み攪拌することで、汚水中の有機物を微生物が食べて、汚水をきれいにします。



最終沈殿池

反応タンクより流れてきた汚水を活性汚泥と上澄水にわけ、上澄水は消毒池へ、沈殿した汚泥の一部を反応タンクへ戻し、残りは余剰汚泥として濃縮槽へ送ります。



消毒池

処理水を塩素消毒し、きれいな水にして川や海へ放流します。



6 下水道管について

1950年代から整備してきた下水道管は、市内全域で延長が約1,600kmになります。定期的な点検、高圧洗浄車による清掃、傷んだ下水道管の補修などを行い、安全・安心に下水道が使えるよう維持管理をしています。

下水道管をつくる工事

下水道管をつくる工事は、下水道管の大きさや周囲の環境などを考えて、工事の場所に最も適した方法を進めます。工事の方法は、大きく分けて次の3つがあります。

開削工法

主に、浅いところに下水道管をつくる場合に採用する方法で、道路を直接掘って下水道管を埋設する最も標準的な方法です。



埋設された下水道管



掘削土留状況

推進工法

主に、深いところに下水道管をつくる場合に採用します。大きな縦穴を掘り、底から横方向に掘削機で土砂を掘り、ジャッキの力で下水道管を地中に押し込む方法です。



掘削機の搬入



立坑内のジャッキ

シールド工法

トンネルをつくる代表的な方法です。推進工法と同じように、大きな縦穴を掘り、シールドと呼ばれる掘削機で地中を掘り進め、土砂の崩れを防ぎながら、その内側にセグメントという円筒形に組み立てられる管材を取り付け、下水道管をつくる方法です。



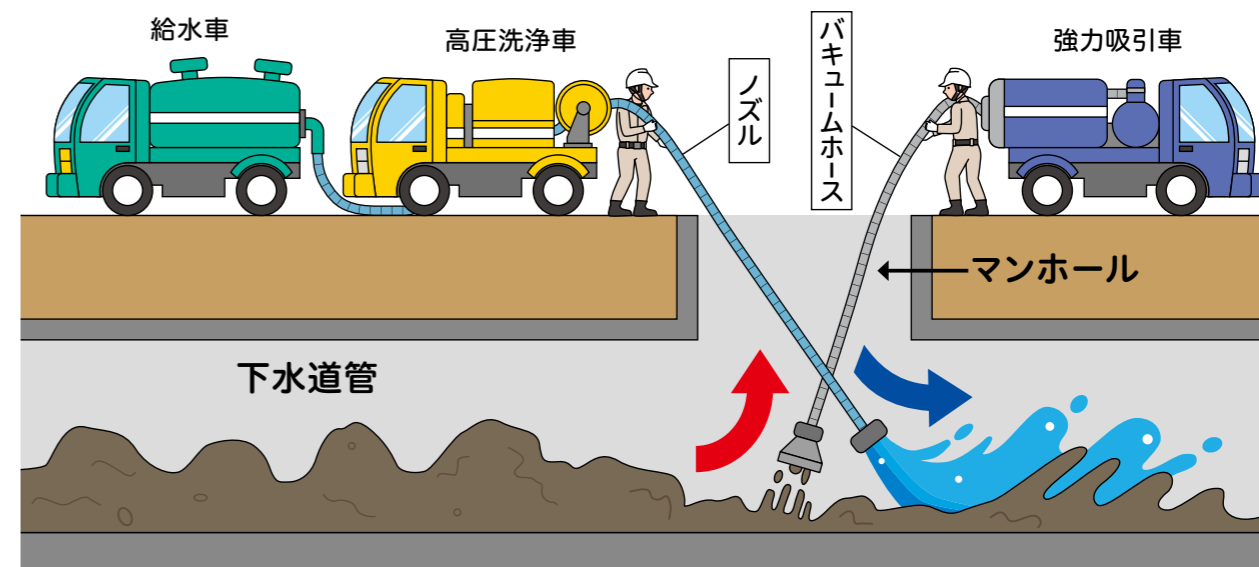
セグメントを取り付けた管内



シールド掘削機

下水道管の清掃

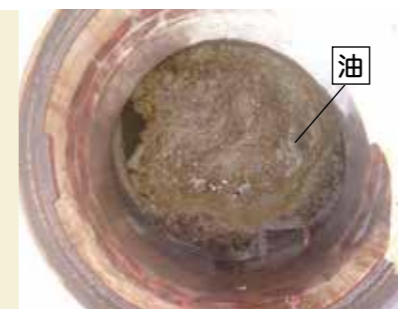
油類やコンクリート等を流してしまうと下水道管が詰まってしまい、マンホールから下水があふれたり、悪臭・害虫の発生により、みなさんの生活に悪影響を及ぼすことがあります。



清掃前

清掃後

油類
による詰まり



コンクリート
による詰まり



みんなで使う下水道です

工事期間中は、通行止め、騒音、振動など、みなさんの日常生活にご不便、ご迷惑をおかけすることがありますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

下水道管の老朽化と道路陥没

下水道管が老朽化するとひび割れ、破損、継手のズレなどが発生し、道路陥没が起こることがあります。

藤沢市内の下水道管(延長1,600km)は、およそ本州の長さと同じなんだ。古くから整備されている下水道管は、年齢で言うと60歳以上になるよ。



下水道管の老朽化

下水道管の老朽化が道路陥没につながる流れは次のとおりです。

1

老朽化によって下水道管が壊れる



2

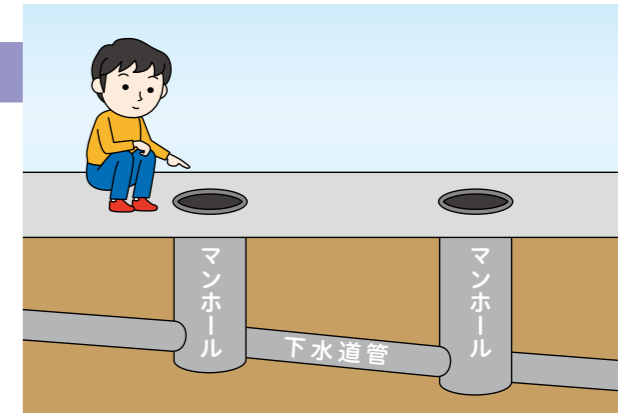
下水道管の破損などにより道路陥没が発生

ひび割れや破損、ズレ等により上部空間に空洞が生じ、道路陥没が発生します。



下水道管の工事(改築工事)

傷んだ下水道管などの機能を回復することや、地震に強い下水道にするために、下水道管の改築を進めています。



下水道管の修復方法

● 布設替え工法(開削工法)

道路を直接掘り、傷んだ下水道管と新しい管を交換することで、下水道の機能を回復します。

● 更生工法

傷んだ下水道管の内側に地震に強い傷みにくい管をつくることによって、もともとの下水道管と同等の機能を備えることを目的に施工されます。



施工前



施工中



完成

道路を掘り起こさないで済みます

この写真では内側をコーティングする工事をしているよ。



マンホールの修復方法

● 更生工法

下水道の維持管理に必要なマンホールにも傷みが生じますが、その内面を地震や傷みに強い部材で覆うことによって、マンホールの機能を回復します。



施工前



施工中



完成

地震対策

下水道管とマンホールが接続されているところは、地震の揺れにより、下水道管が外れたり、ひび割れたりする被害が集中しやすいところです。

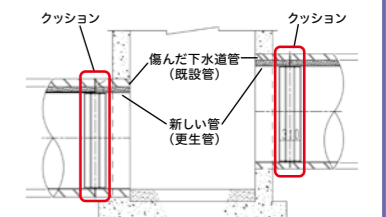
そのため地震から下水道管を守るために、マンホールの中からゴムなどのクッション材を挟み込むことで、地震に強い下水道となります。



施工前



完成

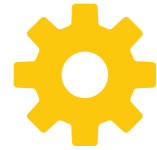


イメージ図

7 浄化センター・ポンプ場について

汚水を処理してきれいな水にし、皆さんの暮らしを守るために、浄化センターやポンプ場といった下水道施設を適正に維持管理することが重要です。

機器の 保守・点検



浄化センターやポンプ場には、水をきれいにするための機器や、汚水を送水するための機器がたくさん設置されています。計画的にこれらの点検を行い、必要に応じて修理や部品交換を行うことで、故障等といった不具合を、未然に防いでいます。

水質管理



浄化センターでは、汚れを分解する働きがある微生物を利用して、水をきれいにしていきます。微生物が活発に動くように、毎日水質分析を行い、機器の運転調整を行っています。



採水作業 水質分析作業

運転管理



下水道施設の運転が適切に行われるように、365日1日も休まず、24時間体制で、常に運転監視操作を行っています。



中央監視操作室

再利用



汚水を処理する過程で発生した下水汚泥は、焼却した後、灰を建設材料等として、全量リサイクルされています。



施設内の様子

浄化センター (水処理や汚泥処理をしています)



みずしより 水処理施設点検作業



非常用発電機点検作業



しょうきやくろ 焼却炉点検作業



ほき 補機点検作業



汚水ポンプ点検作業



辻堂浄化センター だっすいき (ベルトプレス脱水機)

ポンプ場 (汚水は浄化センターへ送水し、雨水は川へ排水しています)



今田ポンプ場 (汚水中継)



村岡ポンプ場 (汚水中継・雨水排水)



雨水ポンプの点検作業

8 下水道とお金のはなし

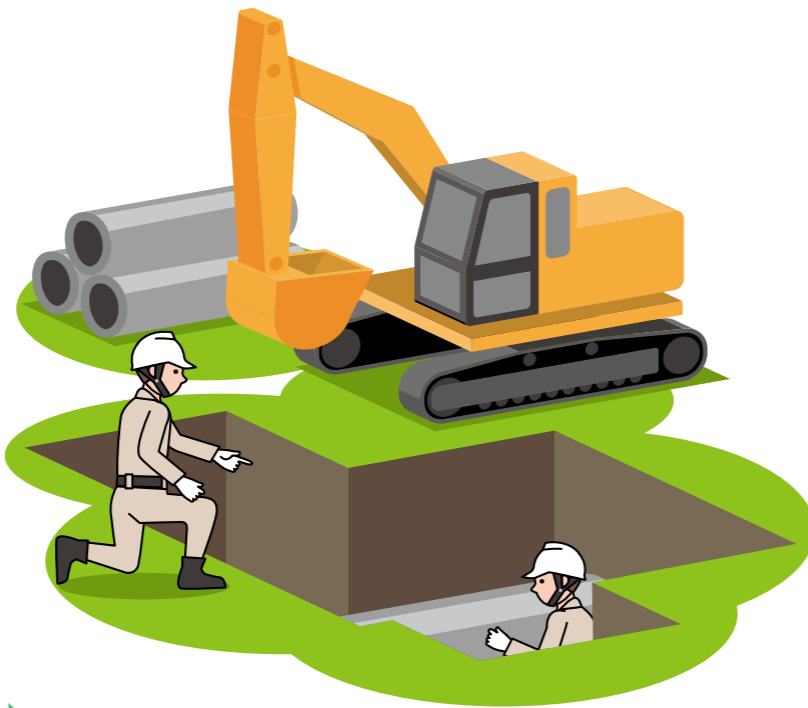
下水道事業では、トイレやキッチンで使った汚水をきれいにするために、下水道利用者のみなさんからいただく下水道使用料(私費)を充てています。また、家や道路などに降った雨水を排除するために、主に税金(公費)を充てています。

藤沢市の下水道事業は効率的に事業を運営するため、市の他の会計と区別され、民間企業と同じような1つの独立した会計により運営されています。

下水道事業費

A 下水道の建設費

下水道管や浄化センター、ポンプ場などの下水道施設をつくっています



受益者負担金 (分担金)制度

公共の下水道が整備されることによって利益を受ける土地の所有者などの方(受益者)に、土地の面積に応じて一度限りご負担いただくお金です。

そのお金を下水道の建設費の一部にあてることで、事業を円滑に推進することができます。

ご存知ですか?

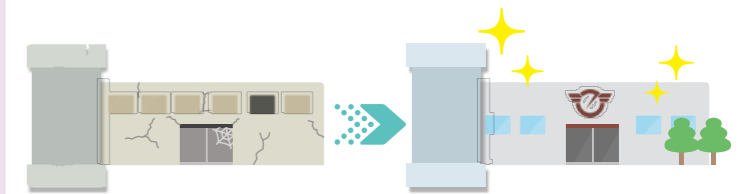
Question>>>

藤沢市の下水道はほぼ整備が
終わったと聞きましたが、
どうしてまだ
工事をするのですか?

改築・更新

浄化センターやポンプ場などの施設を新しくつくることは少なくなりましたが、下水を処理する機械や下水道管には寿命があります。

そのため、計画的に施設や下水道管をつくりかえています。



Question>>>

どうして借金をして
施設をつくっているのですか?

負担を公平にするため

下水道をつくるには多額のお金が必要になります。つくった下水道は長期間使用するため、下水道を利用する現在の利用者と将来の利用者に公平に負担していただくために、借金(下水道債)をしています。

下水道債を使わないと...



現在の利用者が
建設費を全額負担



現在の
利用者



将来の
利用者



将来の
利用者



将来の
利用者

下水道債を使うと...

長期間で借金を返済するので
将来の利用者も
平等に建設費を負担



現在の
利用者



将来の
利用者



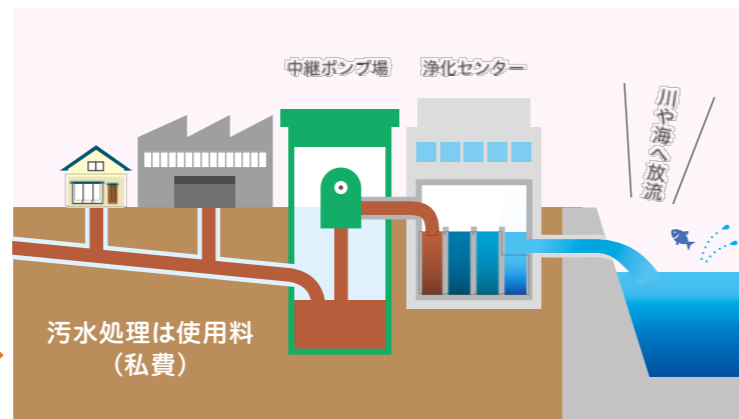
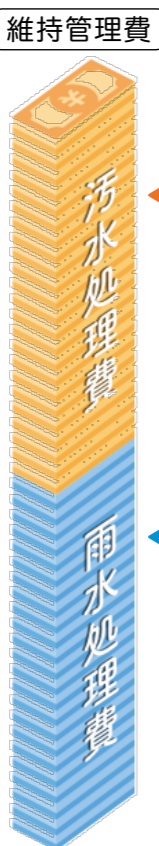
将来の
利用者



将来の
利用者

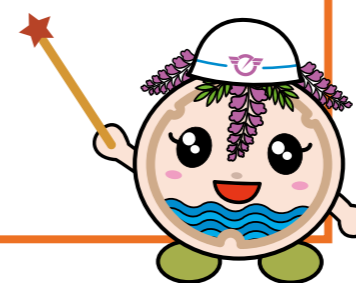
B 維持管理費

下水道管、浄化センターなどの維持管理をしています



下水道使用料の 使いみち

下水道使用料は、「浄化センター、ポンプ場の運転や下水処理にかかる費用」、「施設をつくるための借金の利息」などに使われています。



9 下水道の正しい使い方

宅地内の「ます」の上には物を置かない



「ます」は宅地内からの排水を下水道管へ流す入口です。点検清掃のためにふたを開けることがあります。

天ぷら油やサラダ油などを流さない



油は下水道管に付着すると、人間の動脈硬化と同じように、つまりの原因となります。

灯油・シンナーなどは絶対に流さない



揮発性の高い危険物はガス化して爆発してしまう恐れがあります。

野菜くずやゴミなどを流さない



下水道管のつまりの原因などになります。

家のまわりの落ち葉やゴミを清掃しましょう



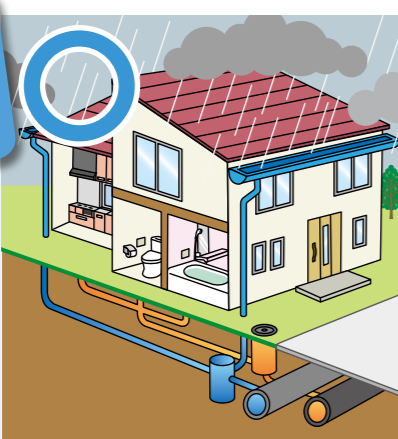
道路に降った雨水を下水道管へ取り込む「集水ます」に、落ち葉やゴミが溜まると、浸水の原因にもなります。

雨水を浸透させましょう



健全な水循環の促進と、川への雨水の流出を抑え、浸水被害を軽減する効果があります。

汚水、雨水を正しく流しましょう



分流式の処理区では、雨水が汚水管へ接続されていると大雨時に汚水管や浄化センターの能力を超え、汚水が溢れてしまう可能性があります。

ペットの糞は可燃ごみに出しましょう

ペットの糞は道路の集水ますやトイレなどに流すと、付着している小石や砂の影響で下水道管を傷つける恐れがあるほか、つまりの原因にもなります。

10 下水道のPR活動

下水道を市民のみなさんに広く知っていただくために、様々な活動を行っています。みなさんのご参加をお待ちしています。

下水道に興味を持っていただくきっかけとして...

マンホールカード



藤澤浮世絵館で配布中！
配布期間、在庫状況等はホームページをご覧ください。

デザインマンホール

マンホールで世界のみなさんをおもてなし！
江の島の歩道部分に設置してあります。




街頭キャンペーン

9月10日の「下水道の日」に行っています。



「下水道の日」作品コンクール

市内の小学校4年生を対象とした作文・ポスター・書道のコンクールです。



実際に下水道に触れていただく機会として...

工事見学会



実際に行っている工事を身近に感じることができます。

下水道フェア

浄化センターの見学やいろいろな楽しいイベント。
開催時期は広報・ホームページ等でお知らせします。




施設見学

見学者は随時受け付けています。
(詳しくは見学を希望される浄化センターにお問い合わせください。)

もっと詳しく知りたい方はホームページにいろいろな情報を掲載しています。

- 下水道運営審議会
- 湘南ふじさわ下水道ビジョン
- 経営状況



11 下水道のあゆみ

藤沢市の下水道は人口増加、経済の発展などによる需要の増加に伴い、段階的に整備を進めてきました。今後は「湘南ふじさわ下水道ビジョン」の各事業を進め、より快適なまちづくりに貢献していきます。

年代	できごと	下水道普及率
昭和20年代 (1945-1954)	<p>南部処理区で下水道事業に着手しました</p> <p>1年目 1951年 雨水対策を中心とした下水道事業に着手</p>	 <p>南部処理区の整備が進む</p>
昭和30年代 (1955-1964)	<p>南部処理区で下水処理(簡易処理^{※1})を開始しました</p> <p>5年目 1955年 公共下水道事業認可取得 (藤沢、鶴沼、片瀬)</p> <p>14年目 1964年 辻堂浄化センターで簡易処理開始</p>  <p>オリンピック前の江の島</p>  <p>昭和30年代の下水道工事の様子</p>  <p>南部下水処理場 1964年 (現辻堂浄化センター)</p>	
昭和40年代 (1965-1974)	<p>南部処理区で公共用水域水質保全を目指して高級処理^{※2}を開始</p> <p>16年目 1966年 辻堂浄化センターで高級処理開始</p> <p>22年目 1972年 南部処理区の全域の事業認可取得完了</p>  <p>辻堂駅付近</p>	<p>1972年(22年目) 普及率 32.0% 処理人口約 7.9万人 行政人口約 24.5万人</p>
昭和50年代 (1975-1984)	<p>東部処理区、相模川流域処理区の整備に移行しました</p> <p>27年目 1977年 東部処理区の事業認可取得 (柄沢、村岡、川名地区など)</p> <p>30年目 1980年 大清水浄化センターの建設</p>  <p>藤沢駅北口</p>	 <p>東部処理区の整備が進む</p>
昭和60年 平成9年 (1985-1997)	<p>東部処理区、相模川流域処理区で供用開始しました</p> <p>35年目 1985年 大清水浄化センターの高級処理開始</p> <p>41年目 1991年 相模川流域処理区の一部供用開始</p>  <p>海水浴客でにぎわう江の島付近</p>  <p>東部下水処理場 1985年 (現大清水浄化センター)</p>	
平成10年代 (1998-2007)	<p>市街化調整区域の下水道整備に着手しました</p> <p>51年目 2001年 市街化調整区域の事業認可取得 (長後、上谷台、遠藤地区など)</p>	<p>1991年(41年目) 普及率 70.8% 処理人口約 25.2万人 行政人口約 35.4万人</p>
平成20年代～ (2008-)	<p>下水道の多種多様なニーズ・課題に対応し、より快適なまちづくりに貢献するために、『湘南ふじさわ下水道ビジョン』を策定しました。</p> <p>61年目 2011年『湘南ふじさわ下水道ビジョン』を策定</p>   <p>貯留管内</p>  <p>貯留管をつくるシールドマシン</p>	<p>2019(69年目) 普及率 95.8% 処理人口約 41.8万人 行政人口約 43.6万人</p>

※1 簡易処理：下水中の固形物を沈殿させ、分離除去を行う処理。
 ※2 高級処理：活性汚泥などによる処理。現在の下水処理における一般的な処理。

最後までお読みいただきありがとうございました。今後も藤沢市の下水道事業へのご理解ご協力をお願いいたします。

発行

2021年(令和3年)3月

藤沢市下水道部

〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1番地の1

TEL. 0466-25-1111

